



# アクションプラン beyond2020

(東京マラソン財団 今後 10 年の取組)



## はじめに

- 2007年の初回大会以降、東京マラソンは新たな挑戦を続けながら発展を遂げ、定款に定めた「東京マラソンの安定的な運営や世界最高水準の大会への発展」については一定の目的を達成することができた。
- これまで、東京都のスポーツ振興とも連携しながら、ランニングイベントの実施やランニングサポート施設の運営等を通じてランニング文化の普及に取り組み、財団の設立目的である「都民の健康増進と豊かな都民生活の形成」にも取り組んできた。
- 財団は2020年6月で設立10周年を迎える。今後10年間の事業の方向性を示すため、社会的課題等に対応した取組の再整理を行うとともに、財団の設立目的に加え、少子高齢化・健康寿命の延伸、スポーツビジネス環境の変化、東京2020大会のレガシーを見据えた計画を策定する。



## 財団設立後の総括

### ◇ 財団設立目的の達成状況

➤ 定款第3条（目的）

この法人は、東京マラソンを安定的に運営し、国内外から多くのランナーが集う世界最高水準の大会へと発展させるとともに、ランニングスポーツの普及振興を通じて、都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与することを目的とする。

➤ 2010年6月の財団設立以降、チャリティをはじめとした東京マラソン関連コンテンツの充実やワールドマラソンメジャーズ（現アボット・ワールドマラソンメジャーズ）への加入、ランニングスポーツの普及振興を目的とした会員組織 ONE TOKYO やスポーツボランティア会員組織 VOLUNTAINER の開設など、財団のミッションの達成に向けた事業の充実・多角化を進めた。

➤ その結果として、東京マラソン 2019 の一般抽選倍率約 12 倍、外国人参加ランナー約 6000 人、チャリティ寄付総額約 5 億円となり、世界 6 大メジャー大会として世界最高水準の大会規模と運営を誇る大会に成長した。

➤ ONE TOKYO 会員数も約 50 万人、VOLUNTAINER 登録者数も約 2 万 5 千人となり、ランニングスポーツの普及振興の側面からも大きな成果を残し、財団に与えられたミッションは順調に達成してきたと言える。

### 財団設立目的の達成状況

定款第3条  
（目的）

- ①東京マラソンを安定的に運営し、国内外から多くのランナーが集う世界水準の大会へ発展させる
- ②ランニングスポーツの普及振興を通じて都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与する

2007～2010 組織委員会 ～東京マラソンの創設と運営模索期～

◇大会オペレーション、EXPO、ボランティアなど3万人規模の大会を円滑に運営するノウハウの模索



2010～現在 財団 ～世界最高水準の大会への成長と財団化による事業拡大～

◇世界最高水準の大会への成長、ランニング文化の普及に向けた様々な取組み



2018/2019  
実績

- 一般抽選倍率：12倍 ○定員38000人(うち外国人ランナー：6000人) ○ONE TOKYO会員数：50万人
- Run as ONE提携大会・陸協数：100 ○チャリティ寄付額：5億円 ○沿道観衆数：160万人
- VOLUNTAINER登録者数：2万5千人

財団化による多角的な事業展開によりミッションを順調に達成

## 長期計画の策定

### ◇ アクションプラン策定の背景

- 2020年6月で財団設立10周年を迎え、今後の10年を見据えた財団のミッションの深化、国家戦略や社会的課題に対応した財団の取組みの再整理が必要。
- 財団の設立目的に加え、少子高齢化・健康寿命の延伸、スポーツビジネス環境の変化、2020年以降のレガシーを見据えた長期計画の策定と事業の再構成を行う。
- プランは概ね10年間の財団各事業の方向性を示すものとし、今後、計画の実現に向けた具体的な取組を進めていく。

アクションプラン策定の背景	
少子高齢化	65歳以上人口比率 2010年 23.0% ⇒ 2040年 36.1% 国民医療費 2010年 68兆円 ⇒ 2025年 141兆円
スポーツ人口	成人のスポーツ実施率 2012年 47.5% ⇒ 2015年 40.4% ⇒ 2018年 51.5% 全国的なランニング人口の減少 2012年 1009万人 ⇒ 2016年 893万人
スポーツ産業	スポーツの成長産業化 2015年 5.5兆円 ⇒ 2025年 15.2兆円 IT化・データ活用・他産業との融合
POST2020	アクション&レガシー 「スポーツの力でみんなが輝く社会」「健康長寿社会」「共生社会」「日本型持続可能社会」……
経営改革プラン	「長期的な経営戦略の策定・進捗管理」「2020年以降の継続した収益の確保」 「財団事業の拡充、多様化」「東京マラソンチャリティやボランティア等の更なる充実」

\* 東京マラソン財団調べ

**国家戦略や社会的課題を踏まえたアクションプランの策定・事業の再構成**

## 事業セグメント

### ◇ 事業セグメントの再構成

- 財団の設立目的を踏まえた東京マラソンの世界最高水準のランニングイベントとしての質の向上やランニングスポーツの普及振興に加え、国家戦略や社会的課題、スポーツを通じた社会貢献といった視点を踏まえ、事業セグメントを再構成。
- 事業セグメントごとの目的・テーマを明確化し、目的に沿った既存事業の深化や新規の取組みを進める。
- 事業セグメントは、以下の4セグメントとする。

#### I ランニングイベント事業

～ひとびとがランニングを楽しむ機会の提供～

東京マラソンを世界最高峰の大会へ、オフィシャルイベントの充実

#### II ランニングライフ事業

～ひとびとの生活の中にランニング・ジョギングがある生活の実現～

ランニングスポーツやジョギングの普及振興

#### III ウェルネス事業

～ひとびとが健康づくりに取り組む社会の実現～

健康寿命の延伸、豊かで健康的な生活

#### IV 社会貢献事業

～走ることで社会につながる スポーツの先にある社会貢献～

チャリティやボランティアを通じた社会貢献

## 事業セグメント

ランニングを通じた豊かで健康的な生活の実現、生活スタイルの創造、社会的課題解決への貢献

ランニングイベント事業	東京マラソン オフィシャルイベント	ひとびとがランニングを楽しむ機会の提供
ランニングライフ事業	ランニングスポーツ の普及振興	ひとびとの生活の中にランニング・ジョギングがある社会の実現
ウェルネス事業	健康づくり	ひとびとが健康づくりに取り組む社会の実現
社会貢献事業	社会貢献	走ることで社会につながる・スポーツの先にある社会貢献





## ランニングイベント事業

東京マラソン

オフィシャルイベント

新規大規模イベント



## 東京マラソン

### 1 参加定員

#### <現状>

- 2007年に参加定員30,000人でスタートし、徐々に定員を拡大し、2019大会では38,000人まで拡充。
- 一方、申込人数は2007大会の約9.5万人から2019大会の約33万人へと約3.5倍に増加しており、出走希望者数と定員の乖離が拡大。
- 他方、東京マラソンが加入するAbbott World Marathon Majors (AbbottWMM)の他の5大会の内、ボストンマラソンを除く4大会は、参加者数4万人以上の規模で開催。
- AbbottWMM以外においても、パリマラソン(5万人)、香港マラソン(7.4万人)など世界の主要都市においては、4万人超えの大会があり、大規模イベント開催による都市プロモーションに貢献している。

#### <今後の方向性>

- AbbottWMMのロンドン、ベルリン、シカゴと並ぶ、参加定員4万人の実現に向けた検討を行う。
- 将来的な更なる定員の拡大に向け、スタート、コース、フィニッシュエリアのキャパシティをはじめとした運営オペレーションの検討を実施。

#### ◇東京マラソン参加定員・申込者数の推移

大会年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
マラソン	25,000	25,000	30,000	32,000	33,000	35,500	35,500	35,500	35,500	36,500	35,500	35,500	37,500
10km	5,000	5,000	5,000	3,000	3,000	500	500	500	500	500	500	500	500
定員合計	30,000	30,000	35,000	35,000	36,000	36,000	36,000	36,000	36,000	37,000	36,000	36,000	38,000
申込人数	95,044	156,012	261,981	311,411	335,147	283,988	304,508	303,386	305,734	309,824	322,703	320,794	331,211

#### ◇AbbottWMM各大会完走者数(2017・2018) ※マラソン

大会名	ニューヨーク	シカゴ	ロンドン	ベルリン	東京	ボストン
完走者数	50,773	44,341	40,273	39,235	34,542	25,907

### 2 10km

#### <現状>

- 2007年に参加定員5,000人でスタートし、マラソン定員の拡充にともない、2010年に3,000人、2012年に500人に縮小。
- 参加定員縮小にともない、申込者数も2012年から1,000人前後で推移。
- 2012大会から東日本大震災被災者招待事業(東京都事業)として100人の高校生が参加。

- 障がい者の部のうち、車いすの参加者については、過去6回定員割れ。

<今後の方向性>

- 被災者招待事業の今後の展開や運営オペレーションの簡素化の検討を踏まえ、今後のあり方について検討する。
- 併せて、マラソンの部への障がい者参加枠の創設や高校生以下の参加のあり方について検討する。

◇10km 参加定員・申込者数の推移

大会年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
定員	5,000	5,000	5,000	3,000	3,000	500	500	500	500	500	500	500	500
申込人数	17,523	25,950	35,603	39,307	40,678	1,164	1,058	944	909	1,014	1,244	1,017	940

◇10km 車いすの部 参加定員・申込者数の推移

大会年	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
定員	25	25	25	25	25	25	25	25	25	10	10	10	10
申込人数	16	22	18	25	25	19	22	13	12	14	12	10	8

### 3 エントリーカテゴリー

---

<現状>

- 一般エントリーの他、2011大会からチャリティエントリー、2012大会から ONE TOKYO 先行エントリー、2015大会から Run as One - Tokyo Marathon 準エリートなどのエントリーカテゴリーを追加。
- 一方、マラソン抽選対象数 2.7 万人に対し、申込者数は 33 万人と、出走権を得るには引き続き狭き門となっており、連続落選者やシニアランナー、6 大大会制覇を目指す海外ランナーからはエントリーカテゴリーに関する様々な意見が寄せられている。
- 2018 年に実施した ONE TOKYO メンバー向けのエントリーカテゴリーに関する意見募集では、連続落選者への対応などに関する意見が多数寄せられた。

<今後の方向性>

- 参加希望者の多様な属性やニーズを踏まえ、東京マラソンへの様々な参加の仕方を検討する。
- 2018 年実施の意見募集の結果を踏まえ、2020 大会から、コース沿道をはじめとした地域への還元を目的とした都民エントリーを創設するとともに、順次、連続落選者のためのエントリーや他の AbbottWMM 大会で導入されている年代別エントリーなど、エントリーカテゴリーを追加し、ランナーの様々なニーズに応えていく。

◇エントリーカテゴリーに関する意見募集

- ・対象 ONE TOKYO 会員 57 万人
- ・募集期間 2018 年 10 月 19 日～11 月 2 日
- ・意見数 140 件
- ・主な意見 連続落選エントリー 51 件 地元優先エントリー 16 件  
年代や記録に応じたエントリー 15 件
- ・その他意見 ボランティア経験回数によるエントリーなど

◇東京マラソン一般エントリー以外のカテゴリー

ONE TOKYO先行	チャリティ	Run as One 準エリート
3000人	5000人	1500人

◇AbbottWMM 他大会の一般以外のエントリーカテゴリー

New York	Time Qualifier (年代別男女別タイム)、NYRRの9大会以上参加かつ大会ボランティア経験あり
London	Good For Age Entry (年代別男女別タイム)
Berlin	Jubilee-Club (10回以上参加)

## 4 関連イベント

<現状>

- 大会前日にファミリーラン (2,000 人)、フレンドシップラン (2,000 人) を公道を使用せず実施。
- 他の AbbottWMM 大会では、大会前日などに公道を使用した大規模のファンランイベントを実施し、大会参加者だけでなく家族や応援者、ランニングファンも参加。大会の盛り上げに寄与。

<今後の方向性>

- 公道を使用した大会前の大規模ファンランイベントの実施を検討

◇AbbottWMM 他大会関連イベント

大会	イベント名	距離	参加者数
ポストン	B.A.A 5k	5km	1 万人
ベルリン	Breakfast Run	6km	1 万人
ニューヨーク	Abbott Dash to the Finish Line 5k	5km	1 万人
シカゴ	Advocate Health Care International Chicago 5k	5km	5.5 千人

## オフィシャルイベント

### 1 コンセプト・位置づけの再整理

#### <現状>

- ランニングスポーツの普及振興を通じた健康増進と豊かな生活の形成に寄与することを目的に実施。
- 2011年に年3回、2012年に年4回実施し、2013年以降は年2回実施。
- 現在は、春のファンラン（リレーハーフマラソン）、秋の公認大会（ハーフマラソン）の年2回開催。
- 近年は春秋いずれも定員未充足となっている。
- 東京都内では年に約500のランニングイベントが開催されており、他のイベントとの差別化が求められている。
- 財団事業として、ONE TOKYO メンバー向けのイベントやマンスリーバーチャルマラソン（MVM）など小規模なイベントを実施している。

#### <今後の方向性>

- ONE TOKYO イベントや今後計画される SPOTAG 事業イベントなど、他の財団イベント事業とオフィシャルイベントの位置づけを再整理。
- 東京マラソンのコンテンツホルダーとして、より東京マラソンとのつながりを打ち出し、「東京マラソンにつながる、東京マラソンからつながる」をテーマとしたイベントを企画実施し、他のランニングイベントとの差別化を図る。
- また、東京マラソンの参加者の裾野を広げるためのコンセプトやターゲットを絞ったイベントを実施する。
- オフィシャルイベントの充実と併せ、イベント毎の収支均衡策を検討する。

#### ◇オフィシャルイベント実施状況

実施年	時期	種目	定員	申込者数
2015	春(5月)	リレーハーフ	1,600	1,149
	秋(10月)	ハーフマラソン	1,500	1,652
2016	春(5月)	3時間リレー	2,000	945
	秋(10月)	ハーフマラソン	2,000	2,111
2017	春(5月)	リレーハーフ	2,000	866
	秋(10月)	ハーフマラソン	3,000	2,311
2018	春(5月)	リレーハーフ	2,000	965
	秋(10月)	ハーフマラソン	3,000	2,025

◇東京マラソン年代別参加者比率

	20s	30s	40s	50s	60s
2010	17.6	33.8	28.1	13.9	5.7
2017	10.7	25.5	33.3	22.4	6.8
増減	▲6.9	▲8.3	5.2	8.5	1.1

- ・ 2010 大会と比べ、20 代、30 代の参加者比率が減少。
- ・ より若い世代がランニングに取り組む、東京マラソンにチャレンジすることを促すイベントの実施

◇AbbottWMM 男女別参加者比率

	Men	Women
Tokyo	77.3	22.7
New York	58.4	41.6
London	60.7	39.3

- ・ AbbottWMM 他大会に比べると、女性の参加比率が低い。
- ・ 2016 年の笹川スポーツ財団の調査では、週に 2 回以上ランニング・ジョギングをする成人女性の比率は 31.5%であり、潜在的な女性参加者の顕在化の余地あり。
- ・ 女性にターゲットを絞ったイベントの実施と東京マラソンとのリンクの検討。

◇ニューヨークロードランナーズ（NYRR）の取組み



- ・ ニューヨークマラソンのコース沿道地域ごとにランニングイベントを実施。
- ・ その他イベントも含め、9 イベント以上に参加し、ボランティア活動に 1 回参加すればニューヨークマラソンに出場することが出来る仕組み。
- ・ 本大会との連動による各イベントの活性化や沿道地域への貢献。

## 2 東京都西部地域でのランニングイベント

---

### <現状>

- 東京都西部地域での参加者数 1 万人超えの大規模ランニングイベントは青梅マラソンのみ。
- 財団としては、2012 年の味の素スタジアム・武蔵野の森公園での 10km レース、2014 年の駒沢陸上競技場での 5000m タイムトライアル以外の東京都西部地域でのイベント開催実績なし。

### <今後の方向性>

- ランニングスポーツの普及振興を通じた都民の健康増進と豊かな都民生活の形成に寄与という財団の設立目的に鑑み、これまで積極的に事業展開を図ってこなかった東京都西部地域でのランニングイベントの実施について検討する。

### ◇東京都西部地域の主なランニングイベント（駅伝・リレーを除く）

大会名	時期	種目	参加定員
青梅マラソン	2月	30km・10km	19000人
立川シティハーフ	3月	ハーフ・3km	8000人
府中多摩川マラソン	11月	ハーフ・10km・5km	3000人
練馬こぶしハーフ	3月	ハーフほか	5000人
武相マラソン	4月	ハーフ・8km	4500人



## 新規大規模イベント

### ◇ レガシー事業としてのランニングイベントの検討

---

#### <現状>

- 財団設立以降、東京マラソン以外の各種事業を拡大してきたが、これらの事業展開は財務運営上も基幹事業である東京マラソン事業が支えている現状。
- 2020 年以降のスポーツビジネス環境の変化を見据え、東京マラソン事業以外の強力なコンテンツを創造し、財団経営のもう一つの柱に育てていくことが必要。
- 他の AbbottWMM 各大会の運営団体は、本大会以外にフルマラソン、ハーフマラソンも含め他の大規模イベントも運営し、各開催都市では 1 万人以上参加の複数の大規模スポーツイベントを実施。
- 東京都心においては、公道を使用する市民 1 万人以上参加の大規模イベントは東京マラソンのみ。
- AbbottWMM において、新規シリーズとして、ハーフマラソンシリーズの実施について検討中。
- 財団と東京 2020 組織委員会とは、2017 年に連携協定を締結し、オリンピックレガシーの創出と継承に関して協力することを明記。
- 東京都は、「東京都スポーツ推進総合計画」政策指針 23 において、東京を活性化させるスポーツイベント等の展開を掲げている。

#### <今後の方向性>

- 今後、2020 オリンピック・パラリンピックレガシーに関する検討を踏まえ、1 万人以上の市民が参加するランニングイベントの実施を検討。
- 新規大規模イベントの実施によるスポーツツーリズムの促進や市民の健康意識への継続的関心の誘引、100 億円規模の経済波及効果を目指す。

◇海外他都市の大規模ランニングイベント

都市	大会名	種目	参加人数
ロンドン	Virgin Money London Marathon	フル	40,000人
	The Vitality Big Half	ハーフ	11,000人
	Royal Parks Foundation Half Marathon	ハーフ	16,000人
ベルリン	BMW Berlin Marathon	フル	40,000人
	Berlin Half Marathon	ハーフ	36,000人
ニューヨーク	TSC New York City Marathon	フル	50,000人
	United Airline New York Half	ハーフ	22,000人
	Popular Brooklyn Half	ハーフ	22,000人
	NYRR Staten Island Half	ハーフ	10,000人
	NYCRUN Brooklyn Marathon	フル&ハーフ	12,000人
シカゴ	Bank of America Chicago Marathon	フル	45,000人
	Chicago Half Marathon	ハーフ	20,000人
ロサンゼルス	LA Marathon	フル	25,000人
	Long Beach Marathon	フル	26,000人
パリ	<u>Shneider Electric</u> Marathon de Paris	フル	50,000人
	Paris Half Marathon	ハーフ	40,000人
マドリッド	The <u>Rock'n</u> Roll Madrid Marathon	フル	15,000人
	Madrid Half Marathon	ハーフ	13,000人

## ランニングライフ事業

ONE TOKYO

ランナーサポート施設

東京マラソン EXPO

RUN as ONE – Tokyo Marathon



## 1 メンバーメリット

<現状>

- 有料会員であるプレミアムメンバー（年会費 4,320 円）と無料会員であるクラブメンバーで構成。
- 2017 年、2018 年の 2 年連続でプレミアムメンバー数が減少。
- プレミアムメンバーのメリットとして、東京マラソンの先行エントリー（3,000 名）があるが、10 倍程度の倍率があり、有料会員になるインセンティブが低下。
- クラブメンバーの東京マラソンや ONE TOKYO イベントへの関与の度合いが未把握。

<今後の方向性>

- 東京マラソンへの参加のためのメリット強化と有料・無料会員それぞれへのサービスコンテンツの拡充。
- 東京マラソン連続落選者への対応や先行エントリー枠の拡充について検討
- ONE TOKYO アプリを活用した会員向けイベントの実施や東京マラソンオフィシャルパートナー企業と連携したサービスの提供・情報発信などにより、メンバー数の拡充を図る。

◇プレミアムメンバーとクラブメンバーのサービス内容

Premium Members プレミアムメンバー（有料会員）	Club Members クラブメンバー（無料会員）
メールマガジン	メールマガジン
各種イベント優先参加	各種イベント参加
各種イベント料金割引	ONE TOKYO APP
ONE TOKYO APP	
東京マラソン先行エントリー	

◇ONE TOKYO メンバー数の推移

	2015	2016	2017	2018
クラブメンバー	411,048	449,605	468,860	504,978
プレミアムメンバー	30,156	31,819	31,117	29,998
合計	441,204	481,424	499,977	534,976

## 2 新規メンバー開拓

### <現状>

- 女性のメンバー比率が全国のランニング・ジョギング人口に占める女性の比率に比べ低く、女性ランナーなどに訴求する余地あり。
- 海外在住者はメンバー登録することができず、東京マラソンへの参加ニーズが高まっている外国人ランナーが日常的に東京マラソンへ関与する手段がない。

### <今後の方向性>

- ONE TOKYO に取り込めていない属性のランナーやジョギング愛好者へのアプローチの強化。
- 特に女性向けのランニングクリニックやサービス、メディア露出を強化し、メンバーの女性比率を高める。
- また、ニューヨークシティマラソンを運営するニューヨークロードランナーズ (NYRR) のように、外国人も登録できるようにし、さまざまなサービスやイベントの情報配信、アプリを活用したバーチャルマラソンイベントの実施により、海外在住ランナーの年間を通じた東京マラソンへの関与の度合いを高める。

◇週に2回以上ジョギング・ランニングをする成人の男女比率 (2016年笹川スポーツ財団調査)

	男性	女性
実施人口 (万人)	246	113
比率 (%)	68.5	31.5

◇ONE TOKYO メンバー男女比率 (2018年8月現在)

	男性	女性
クラブメンバー	74.3	25.7
プレミアムメンバー	81.4	18.6

◇NYRR Virtual Racing アプリを使用し世界中のNYRR登録者が参加できるレースを実施



### 3 都外へのサービス展開

#### <現状>

- ONE TOKYO メンバー50万人のうち、約6割にあたる37万人が東京都外に在住。
- 2018年まではONE TOKYO メンバー向けのクリニック等のイベントは都内でのみ実施
- 2018年から埼玉県陸上競技協会と連携し、埼玉県上尾陸上競技場において「埼玉陸上競技協会×ONE TOKYO」クリニックを試行実施。

#### <今後の方向性>

- メンバーの30%強（約17万人）が居住する埼玉県、千葉県、神奈川県でのONE TOKYO クリニックをはじめとしたサービスの展開。
- 地域別の組織化などによる、メンバーのアクティビティの活性化。

#### ◇ONE TOKYO メンバー向け居住地別比率（％）

	2016	2017	2018
東京都	40.2	37.4	37.1
埼玉県	9.2	10.0	9.9
神奈川県	13.1	13.9	13.8
千葉県	9.4	9.2	9.1
その他	30.2	29.5	30.1

#### ◇埼玉陸上競技協会×ONE TOKYO クリニック試行実施



	実施日	埼玉県	東京都	千葉県	神奈川県	栃木県	合計
ウォーキングから始めるフルマラソン完走クリニック	2018/9/9	15	6	2	0	1	24
マラソンの基本となる5000mの走り方	2018/11/24	7	6	0	2	1	16

## ランナーサポート施設

### ◇ ジョグポート有明

#### <現状>

- 2013年の開設以来、収支マイナス。赤字幅は減少傾向。
- 2017年度の来店者数は12,217人、前年度比93%となり約1,000人減少。
- 月間の売上のうち、約3～4割がクリニック等のジョグポートイベント参加料収入。
- 平日の利用者数、売上が低調。

#### <今後の方向性>

- 運営方法を含め抜本的見直し。
- コーポレート会員制度の開設と会員企業の誘致による集客促進
- 平日の利用者増に向けたイベントや周辺施設との連携企画の実施。
- 都内の他のランニングサポート施設やフィットネスクラブとの提携による利用者拡大・施設PR。
- 他事業と連動した利用者対象のポイントプログラムの実施。
- 2020オリンピック・パラリピック開催後の有明周辺地区の状況を踏まえた新たなランニングコースの開設検討。
- 5年後（2023年）の黒字化を目指す。

#### ◇ジョグポート有明収支状況（千円）

年度	2014	2015	2016	2017
収益	28,401	27,395	27,918	27,575
費用	57,433	60,428	62,284	48,101
収支	▲ 29,032	▲ 33,033	▲ 34,366	▲ 20,526



## 東京マラソン EXPO

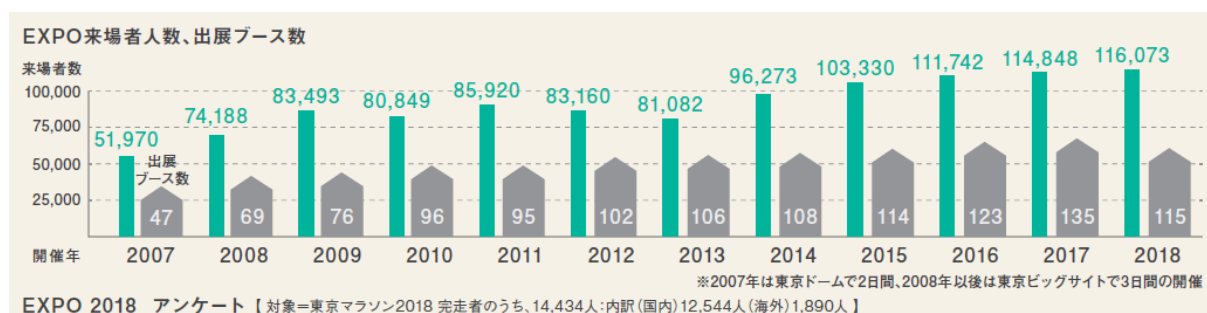
### ◇ 2020 以降の展開

#### <現状>

- 東京マラソン EXPO（以下「EXPO」という。） 2018 では、過去最大の 11 万 6 千人が来場。
- 2020 オリンピック・パラリンピック開催に伴う東京ビッグサイトの利用制限により、EXPO 2019 はお台場で初の屋外開催。
- 2020 オリンピック・パラリンピックの影響により、お台場の利用も制限されるため、EXPO 2020 は規模を大幅に縮小して実施予定。
- 出展ブース数は EXPO 2018 で前年から減少し、2019、2020 ではさらに減少予定。
- 東京マラソン EXPO 2021 からは再び東京ビッグサイトで開催予定。

#### <今後の方向性>

- 2021 大会を EXPO 再出発の年と位置づけ、これまでテーマとして掲げてきた「Running Life Style」を深化・発展させ、Fusion Running を基本コンセプトとした、出展者、来場者双方に魅力のある EXPO の企画運営準備を進める。
- EXPO 2018 までに出店実績のある企業・団体への 2019 年、2020 年のフォローアップと EXPO 2021 への出店誘致。
- 新規出展誘致に向けた、ランニングとコラボレートできる新たな商品・サービス分野の開拓と企業・団体への企画提案。
- EXPO 2021 での来場者数 11 万人、出展数 130 ブースを目標とする。



## 1 JAAF Run Link との連携

### <現状>

- 全国のマラソン大会と連携し、マラソンムーブメントの全国的な盛り上げに資する取組みとして東京マラソン 2015 よりスタート。
- 提携した各都道府県陸上競技協会から推薦を受けた記録等の基準を満たすランナーが準エリートとして東京マラソンに参加。
- 東京マラソン 2016 以降、海外、学生の準エリートカテゴリーを創設。
- 神奈川県、静岡県、長野県、愛知県、福岡県、沖縄県は 2018 年時点で準エリート未提携。
- 未提携県陸協に登録しているランナーは準エリートでの出走ができない。
- 2018 年 11 月に日本陸上競技連盟により JAAF RunLink が創設され、今後、全国のランニング大会のラベリングやランナーリザルトの一元管理のプラットフォームが整備される。
- 全国のマラソンイベントが増加する一方、ランナー人口は 2012 年から 2016 年の 4 年間で 100 万人減少。

### <今後の方向性>

- 提携大会の基準を JAAF RunLink のラベリングに準ずることとし、都道府県陸協との提携の有無に関わらず、全国の大会との提携を可能とする。
- 国内準エリートのリザルト確認を JAAF RunLink の記録管理システムに一元化する。
- JAAF RunLink との連携により、準エリート以外の年代別クオリファイドカテゴリーなど、各都道府県の様々な層のランナーが東京マラソンに参加できる仕組みを構築する。
- 双方向のランナー交流やサービス連携、ボランティア運営の協力など、全国の大会との幅広い分野での連携関係を構築し、ランニングイベントの魅力向上、ひいてはランニング人口の拡大につなげていく。

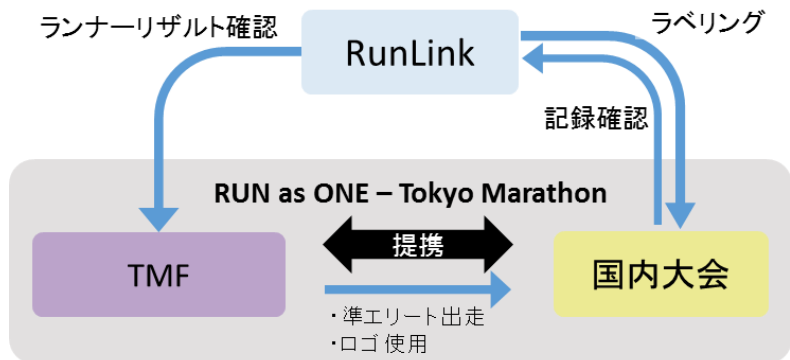
### ◇週 1 回以上のジョギング・ランニング実施率

調査年		1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016
全体	実施率 (%)	3.7	3.4	2.1	3.3	2.9	3.4	4.2	5.5	5.3	4.5
	推計人口 (万人)	362	338	211	336	298	352	436	572	550	467
男性	実施率 (%)	4.4	5.6	3.2	5.2	3.9	4.9	6.5	8.3	7.4	6.3
	推計人口 (万人)	209	270	156	256	194	245	326	417	371	316
女性	実施率 (%)	3.0	1.2	1.1	1.4	2.0	2.0	2.0	2.7	3.2	2.7
	推計人口 (万人)	151	61	57	73	106	107	107	145	172	145

注) 推計人口は住民基本台帳の成人人口 (人) に実施率 (%) を乗じて算出

笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査報告書」(1998～2016) より作成

◇JAAF RunLink と連携した新たな大会提携のイメージ



※TMF：東京マラソン財団

◇現在の RUN as ONE - Tokyo Marathon 出場カテゴリ

「RUN as ONE - Tokyo Marathon 2019」 出場対象

準エリート									
<b>国内</b>	<p>国内在住者(国籍は問わない)で、提携する各都道府県陸上競技協会・提携大会が推薦する日本陸上競技連盟(該当陸協)に登録しているランナー(各道府県から50人以内)</p> <p><b>推薦基準タイム</b></p> <table border="1"> <tr> <td>マラソン男子</td> <td>2時間55分以内、女子 3時間40分以内</td> </tr> <tr> <td>30km</td> <td>男子 2時間00分以内、女子 2時間30分以内</td> </tr> <tr> <td>ハーフ</td> <td>男子 1時間21分以内、女子 1時間45分以内</td> </tr> <tr> <td>10km</td> <td>男子 35分以内、女子 40分以内</td> </tr> </table>	マラソン男子	2時間55分以内、女子 3時間40分以内	30km	男子 2時間00分以内、女子 2時間30分以内	ハーフ	男子 1時間21分以内、女子 1時間45分以内	10km	男子 35分以内、女子 40分以内
マラソン男子	2時間55分以内、女子 3時間40分以内								
30km	男子 2時間00分以内、女子 2時間30分以内								
ハーフ	男子 1時間21分以内、女子 1時間45分以内								
10km	男子 35分以内、女子 40分以内								
<b>海外</b>	<p>国外在住者(国籍は問わない)で、2017年、2018年に実施された下記対象レースで基準タイムをクリアし、記録を証明するための公式記録(リザルト)を提出できるランナー(300人程度)</p> <p><b>【対象レース】</b> ①IAAFのゴールド・シルバー・ブロンズラベルの大会 ②AIMS公認大会 ※提出後東京マラソン財団にて厳正なる選考を行い、当落を通知</p> <p><b>エントリー基準タイム</b></p> <table border="1"> <tr> <td>マラソン男子</td> <td>2時間21分01秒～2時間45分00秒</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>2時間52分01秒～3時間30分00秒</td> </tr> </table>	マラソン男子	2時間21分01秒～2時間45分00秒	女子	2時間52分01秒～3時間30分00秒				
マラソン男子	2時間21分01秒～2時間45分00秒								
女子	2時間52分01秒～3時間30分00秒								
<b>学生</b>	<p>2018年度 日本学生陸上競技連合に登録している学生</p> <p>①第21回日本学生ハーフマラソン選手権大会及び第21回日本学生女子ハーフマラソン選手権大会出場の内、4年生を中心に:20~30名程度 ②地区学連を通じ日本学連に推薦:10名程度 ③日本学連強化委員会の推薦:10名程度</p> <p><b>推薦基準タイム</b></p> <table border="1"> <tr> <td>ハーフ 男子</td> <td>1時間05分以内</td> </tr> <tr> <td>女子</td> <td>1時間15分以内</td> </tr> </table>	ハーフ 男子	1時間05分以内	女子	1時間15分以内				
ハーフ 男子	1時間05分以内								
女子	1時間15分以内								
<b>一般</b>									
<p>国内の各提携大会で2017年11月～2018年10月に出走実績があり、各提携大会から抽選などで選出されたランナー ※提携大会は一定の条件を満たす大会を公募</p>									

**DATA**  
2018大会 居住地別参加者数(上位8県)

北海道	44人
宮城	45人
石川	41人
福島	44人
茨城	40人
埼玉	59人
東京	145人
千葉	39人

**DATA**  
2018大会 国・地域別出走者数(上位5位のみ、居住地別)

USA	53
GBR	30
TPE	22
HKG	21
AUS	19

## 2 アジア展開





















### <現状>

- 東京マラソン 2018 の外国人参加者 6,385 人のうち、半数強がアジア各国からのランナー。
- アボット・ワールドマラソンメジャーズの中では東京マラソンが唯一のアジアの大会。
- 2018 年時点で国際陸連ラベルレース 114 レースのうち、38 レースがアジア地域で開催。
- 近年のアジア地域の経済発展及び健康志向の高まりにより、中国をはじめとしたアジア各国において、ジョギング・ランニング人気が急速に高まっている。
- ジョギング・ランニングブームの高まりにともない、大会数も増加傾向にあり、アジア地域の有力大会の一部は、他大会との差別化や大会としての質の向上を目指し、AbbottWMM への加入や、東京マラソンとの提携を志向している。

### <今後の方向性>

- 国内ランナー人口の減少を踏まえ、国内だけでなく、アジア地域全体でのランナー人口の維持・拡大が東京マラソンの継続的な発展にとって不可欠。
- アジア唯一の AbbottWMM 大会である東京マラソンを軸にした有力大会の連携により、アジア地域全体でのランニングムーブメントの盛り上げと発展を図る。
- ランナー交流に止まらず、各国エリート選手や準エリートのシリーズレース化、ボランティア交流など、様々な連携の可能性を視野に入れた提携関係を構築する。
- 今後、提携条件の整理や AbbottWMM ランキングシステムの活用も含めた制度設計を進め、2020 年度から「RUN as ONE - Asia (仮称)」をスタートする。

### ◇東京マラソン 2018 外国人ランナー完走者数 (上位 20 位)

TPE  923	CHN  868	USA  710	HKG  606	GBR  348	THA  202	AUS  158
GER  153	KOR  150	INA  147	ESP  133	MEX  130	ITA  129	CAN  122
NED  106	SIN  103	FRA  102	MAS  102	PHI  91	BRA  90	

※日本国籍以外のランナー完走者総数6,158人

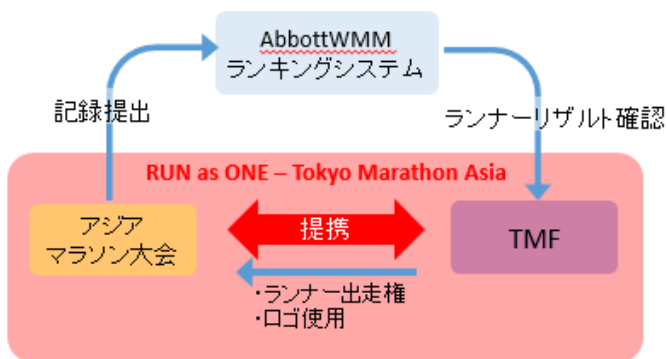
### ◇IAAF Label Road Races アジア地域大会数

JPN	CHN	HKG	TPE	KOR	IND	TUR	PRK	SIN	THA
10	14	1	1	2	4	3	1	1	1

◇中国におけるマラソン関連データ

- 800 人以上の参加者のマラソン大会開催数  
2011 年：22 大会、2016 年：328 大会、2017 年：1102 大会
- マラソン参加者数  
2016 年：280 万人、2017 年：498 万人
- 中国陸連（CAA）目標数値
  - ・2020 年までに 1900 大会開催
  - ・CAA 認定大会数 350 大会
  - ・ランナー数 1000 万人
  - ・マラソン関連産業規模 1,200 億元（約 2 兆円）（2017 年 700 億元）

◇RUN as ONE - Asia 提携イメージ



※TMF：東京マラソン財団



## ウェルネス事業

運動習慣促進





## 運動習慣促進

### 1 ランニング・ウォーキングコースの整備と計測機器の設置促進

<現状>

- 厚生労働省の試算では、2010年に68兆円であった国民医療費は、2025年に141兆円に達し、国民所得に占める国民医療費の割合は約20%に達する見込み。
- 「健康日本21（第2次）」（厚生労働省）では、健康寿命の延伸と健康格差の縮小をかね、身体活動や運動の具体的な目標値を設定。
- 文部科学省は「スポーツ基本計画」（平成24年）において、成人の週1回以上のスポーツ実施率の目標を65%としている。
- 東京都は「東京都スポーツ推進総合計画」（平成30年）において、2020年における都民のスポーツ実施率の目標を70%としている。
- 「健康日本21（第2次）」では、住民が運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体数について、具体的な目標を掲げている。
- 日常生活での歩数増加や運動習慣により、NCD発症・死亡リスクが低下するという研究結果もある。
- 計測機器を設置したランニング・ジョギングコースを国営昭和記念公園に3コース整備(2018年)。

<今後の方向性>

- ランニングやウォーキングを楽しみながら行うことができる環境や設備の整備に取り組む。
- 東京マラソンチャリティ・スポーツレガシー事業として、公園などにランニング・ウォーキングコースを整備するとともに、自身のランニング・ウォーキングの走行距離や時間を記録するための計測機器の設置を推進する。
- 計測機器で測定した記録の管理ツールである SPOTAG により、ランニング・ウォーキングのログを保存し、健康管理や運動習慣の継続に活用。
- 今後、都内のみならず全国の公園等へ整備を拡大。
- 健康増進の観点からの公園の利活用。

◇国民医療費の将来推計（厚生労働省）

	1993年度予算 (平成5年度)	2000年度 (平成12年度)	2010年度 (平成22年度)	2025年度 (平成37年度)
国民医療費(兆円) (対前年度伸び率)	24.3	38 6.5%	68 6.0%	141 5.0%
国民所得の対前年度 伸び率(仮定)		3%	2%	2%
国民医療費/国民所得 (指数)	6.0% (100)	8.5% (130)	13% (180)	19% (290)

(注) 国民医療費は、21世紀福祉ビジョン（平成6年3月）において、平成2年度から4年度の実績の傾向をもとに推計したもの。今後、更に直近のデータに基づき変更することがあり得る。

◇「健康日本 21（第2次）」（厚生労働省）における目標値

項目	現 状	目 標
① 日常生活における歩数の増加	20歳～64歳 男性 7,841歩 女性 6,883歩 65歳以上 男性 5,628歩 女性 4,584歩 (平成22年)	20歳～64歳 男性 9,000歩 女性 8,500歩 65歳以上 男性 7,000歩 女性 6,000歩 (平成34年度)
② 運動習慣者の割合の増加	20歳～64歳 男性 26.3% 女性 22.9% 65歳以上 男性 47.6% 女性 37.6% (平成22年)	20歳～64歳 男性 36% 女性 33% 65歳以上 男性 58% 女性 48% (平成34年度)
③ 住民が運動しやすいまちづくり・環境整備に取り組む自治体数の増加	17都道府県 (平成24年)	47都道府県 (平成34年度)

◇「スポーツ基本計画」（文部科学省）における目標値

数値目標

成人の週1回以上のスポーツ実施率

51.5%<sup>※</sup> ▶ 65%

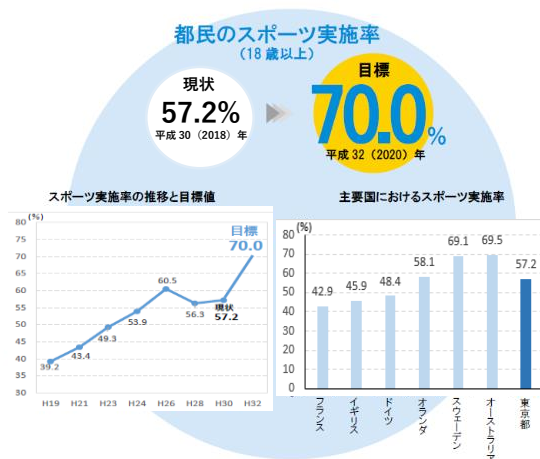
具体的な施策

- スポーツ「ガイドライン」の策定
- 新たなスタイルのスポーツの開発・普及
- 高齢者向け「スポーツプログラム」の策定
- スポーツ実施率調査の検証・改善

▼

生涯心身ともに健康な生活を営む基盤づくり

◇「東京都スポーツ推進総合計画」（東京都）における目標値



## 2 SPOTAG 事業

### <現状>

- スポーツレガシー事業のランニング・ウォーキングコースの整備にあわせ、計測機器を設置。
- 計測機器で測定した記録の管理ツールとして、SPOTAG を開発。

### <今後の方向性>

- 現時点での SPOTAG の記録項目は、走行距離と走行時間、消費カロリーのみであるが、今後、スポーツクラブ運営会社などと協力し、体組成データなどと連携した複合的な健康管理ツールに発展させる。
- 運動習慣継続のモチベーション向上に資するため、SPOTAG を活用した、幅広い年齢層に向けた小規模のランニング・ウォーキングイベントを開催。
- セルフメディケーション・企業社員の健康管理ツールとしての SPOTAG の活用促進。



タグひとつで、新しいライフスタイルがはじまる。

SPOTAG (スポタグ) とは、毎日の散歩やジョギングの移動距離、タイムなどがすぐに記録され確認できるサービスです。  
気軽にウォーキングから本格的なランニングまであなたのアクティビティをサポートし、健康的で新しいライフスタイルを提供します。

#### SPOTAGの主な機能

SPOTAGを身につけて、所定のコースを巡回することで、移動距離、タイム、消費カロリーなどが記録され、専用のサイトからリアルタイムで確認することができます。  
また、仲間同士でオリジナルのランニング・ウォーキングイベントを作成でき、記録は友人、家族と共有することができます。

リアルタイム記録表示	ペース	過去記録
移動距離	消費カロリー	履歴記録
タイム	イベント作成	



#### 計測機器・リストバンド

**充電不要、国際基準の計測機器**  
SPOTAGが採用しているパッシブRFIDは、近年の国際マラソン大会の計測にも採用されている技術で、外部のセンサーから電波を受信し、それを電源として作動するため、充電切れの心配がありません。タグを身につけてセンサーの前を通過すると記録が残ります。



#### Webサイト

いつでも簡単、スマホで確認  
記録は、専用のWebサイトにて確認できます。付属のカードに記載されたQRコードをスマートフォンやタブレット型端末で読み取ることで記録を確認できます。  
※SPOTAGは、計測機器の設置された全コースで共通して利用することができます。

### 3 健康経営支援

#### <現状>

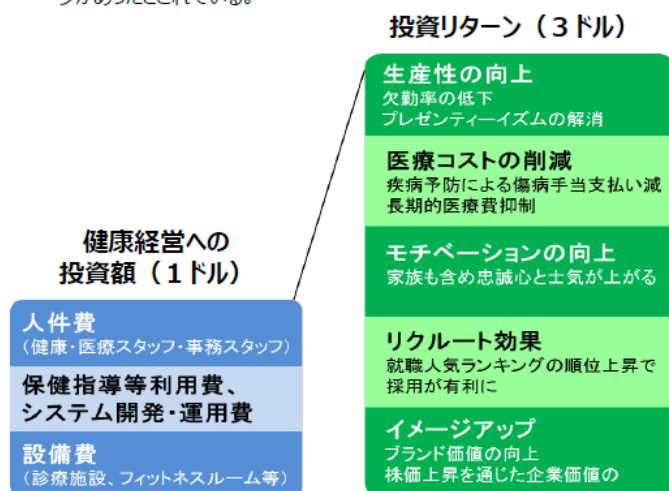
- 従業員の健康保持・増進の取組みが、将来的に収益性等を高める投資であるとの考えの下、健康管理を経営的視点から考え、戦略的に実践する健康経営の考え方が浸透。
- 経済産業省は、企業による「健康経営」の取組みを促進するため、東京証券取引所の上場企業の中から、毎年、「健康経営銘柄」を選定。
- 銘柄選定にあたっては、「健康経営に取り組むための制度があり、施策が実行されているか」、「健康経営の取組みを評価し、改善に取り組んでいるか」などの観点から評価。
- 2017年からは健康経営に取り組む企業等の「見える化」をさらに進めるため、上場企業に限らず、未上場企業や医療法人等の企業を「健康経営優良法人」として認定する制度がスタート。

#### <今後の方向性>

- 運動不足解消に向けたプログラム実施、企業向けランニング・ウォーキングクリニックの実施、社内ランニングイベントの実施支援。
- 従業員の健康管理ツールとしての SPOTAG の活用。
- 企業所有の運動施設や工場敷地などへの SPOTAG 対応計測機器の設置促進。

#### ◇健康経営への投資に対するリターン（「健康経営の推進について」（経済産業省））

- J & J がグループ世界250社、約11万4000人に健康教育プログラムを提供し、投資に対するリターンを試算。
- 健康経営に対する投資1ドルに対して、3ドル分の投資リターンがあったとされている。



(出所)「儲かる『健康経営』最前線」ニューズウィーク誌2011年3月号を基に作成

## 社会貢献事業

東京マラソンチャリティ

スポーツレガシー

環境プロジェクト

VOLUNTAINER (ボランティア)



# 東京マラソンチャリティ

## 1 寄付総額とチャリティの取組

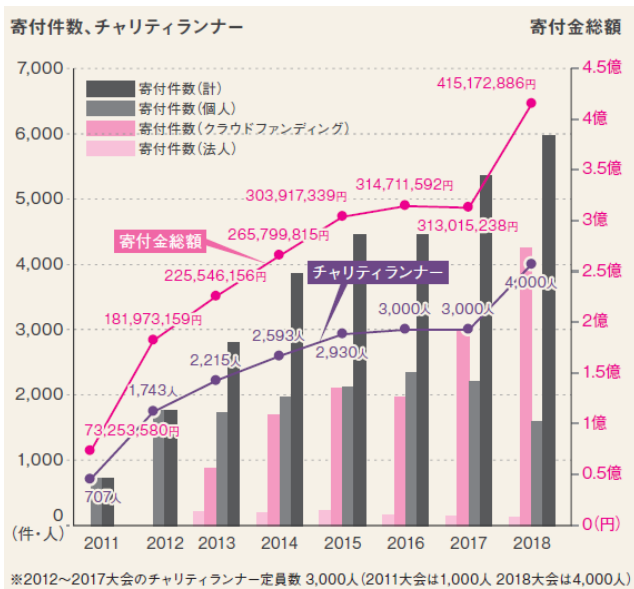
### <現状>

- 2011大会からチャリティランナー定員1,000人でスタート。
- 2017大会で寄付総額3億円に到達し、2016大会でチャリティランナー数が3,000人の定員に到達。
- 2018大会、2019大会でチャリティランナー定員数を1,000人ずつ増加し、現在定員数は5,000人。
- 2019大会では申込み開始から4日間でチャリティランナー定員数に達し、寄付総額が5億円を突破。
- これまでの寄付金累計は25億円を突破。
- 2018大会から登録団体が主体的に寄付募集を行うアクティブチャリティを導入。
- 一方、AbbottWMM他大会においては、ロンドンマラソンの寄付総額約90億円(2017年)をはじめ、ボストンマラソンの約40億円(2018年)など、東京は他大会に比べると低い水準。

### <今後の方向性>

- 東京マラソンのチャリティスポーツイベントとしての位置づけをより強化し、スポーツが社会に貢献する取組みとして一層の充実を図る。
- スポーツレガシー事業の選定や寄付先団体の選定・見直しにあたって、外部委員で構成される委員会において審査するほか、寄付先団体において事前に提出された計画に基づき寄付金が適正に使われたかどうか確認するとともに、団体の事業報告を公表することで寄付者への透明性確保に努める。
- 寄付総額10億円を当面の目標とする。
- 寄付者と寄付先団体がダイレクトに繋がり、継続的な寄付金獲得に効果が期待されるアクティブチャリティの仕組みを拡充するとともに、ロンドンマラソンなどを参考に、より寄付金が集まりやすい仕組みを導入していく。

### ◇寄付総額等の推移



### ◇AbbottWMM他大会寄付総額 (2017・2018)

ロンドンマラソン	89億9千万円
ニューヨークシティマラソン	39億5千万円
シカゴマラソン	20億6千万円
ボストンマラソン	40億7千万円

## 2 寄付先団体数

### <現状>

- 寄付総額の増加にあわせ、寄付先団体も拡充し、2019 大会では 20 団体。
- 20 団体の内、12 団体が「子ども」に関する活動を主としており、全体に占める活動テーマに偏りがある。
- 2018 大会での一団体あたりの平均寄付金額は約 2 千 7 百万円。
- ロンドンマラソンの寄付先団体数は 1300 団体（ゴールデン・ボンド 750 団体、シルバー・ボンド 550 団体）。

### <今後の方向性>

- 寄付先団体の活動テーマの多様性の確保と寄付事業の裾野を広げるため、段階的に寄付先団体を拡充する。
- 拡充にあたっては、国連が「持続可能な開発目標（SDGs）」に掲げた 17 分野に係る活動を団体選定のテーマとし、より幅広い活動にフォーカスしたチャリティ事業とする。

### ◇2019 大会寄付先団体



### ◇国連「持続可能な開発目標」17 分野





# スポーツレガシー

## 1 スポーツレガシー事業の充実

### <現状>

- 「スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承」を目的に、2015大会より東京マラソンチャリティに東京マラソン財団「スポーツレガシー事業」を設置。
- 「スポーツの夢（強化育成）」、「スポーツの礎（環境整備）」、「スポーツの広がり（普及啓発）」、「スポーツの力（社会貢献）」の4つのテーマに基づき、財団からの寄付事業を展開。
- 2019大会から東日本大震災被災地育英事業をスポーツレガシー事業に統合するとともに、「キッズアスレティクス×とうほくキャラバン」を新設。
- 財団自主事業として国営昭和記念公園でのランニングコースの整備事業を実施。

### <今後の方向性>

- スポーツレガシー事業への寄付金の増加に合わせた寄付事業の多様化・充実を図る。
- 寄付金を活用した財団の自主事業としての社会貢献事業を拡充する。

### ◇スポーツレガシー事業寄付実績

東京マラソン財団 スポーツレガシー事業 スポーツを軸とした新しいライフ スタイルを享受できる社会の実現 と継承	2015大会	2016大会	2017大会	2018大会	累計
	304件	291件	274件	412件	1,281件
	20,435,059円	29,710,312円	30,237,470円	41,823,708円	122,206,549円

### ◇2018年度実施事業

**1 スポーツを軸とした新しいライフスタイルを享受できる社会の実現と継承**

**ダイヤモンドアスリートプログラム**  
日本代表選手に向上意欲  
世界を舞台にリーダーシップを発揮し、子どもたちの憧れとなるようなスター選手の育成をサポートします。 2015年度～

**ランニングコース整備**  
ランナーが気軽にランニングを楽しみ、仲間とともに継続できる環境の整備をサポートします。 2016年度～

**キッズアスレティクス × 東京マラソンスタイル**  
日本キッズアスレティクス大会（一般社団法人キッズアスレティクスジャパン）  
子どもたちのスポーツ基礎力を高めるとともに、陸上競技への関心が高まるようサポートします。 2016年度～

**キッズ&ファミリンピック（親子スポーツ交流イベント）**  
公益社団法人東京国際新幹線スポーツ協会  
親子スポーツの体験・交流イベントを通して、障害者スポーツへの参加者を増やすと共に理解・共感を深めることをサポートします。 2018年度～

**EXCEEDチャレンジプログラム**  
一般社団法人日本障害者陸上競技協会  
世界的な競技会で活躍できるマラソンランナーの育成・強化をサポートします。 2018年度～

**障いす陸上チャレンジサポート**  
一般社団法人アパレルチャリティクラブ ソシオSOCIETY  
障いす陸上体験教室に参加した方が、実際に競技を続けられるようにサポートします。 2018年度～

東京マラソン2019チャリティでは「スポーツレガシー事業①」としてご支援ください。

---

**2 被災地の小学生を対象にしたスポーツ活動による復興支援**

**キッズアスレティクス×とうほくキャラバン**  
日本キッズアスレティクス大会（一般社団法人キッズアスレティクスジャパン）  
9月中旬に、岩手県宮古市立田老第一小学校、宮城県登米市立佐沼小学校、福島県南相馬市立原町第三小学校の3校にて実施予定。あわせて、現地に指導スタッフ育成研修会も実施予定。 2018年度～



東京マラソン2019チャリティでは「スポーツレガシー事業②」としてご支援ください。

---

**3 被災地の育英事業（いわての学び希望基金、東日本大震災みやぎ子ども育英基金、東日本大震災みくしま子ども育英金へ分配）**

東京マラソン2019チャリティでは「スポーツレガシー事業③」としてご支援ください。

## 2 子どもの運動プログラムの展開

<現状>

- 子どもの体力・運動能力は、昭和 60 年ごろから低下傾向が続いており、運動する子どもとしない子どもの二極化傾向。
- 肥満傾向の子どもの割合が増加しており、高血圧や高脂血症、将来の生活習慣病につながる恐れがある。
- 国際陸連は「走・跳・投」を中心とした子どもの身体能力向上のための教育システムを開発し、「子ども運動プログラム」Kids Athletics を全世界で展開。
- 財団では 2016 年より「キッズアスレティクス」をスポーツレガシー事業における寄付事業として都内小学生を対象に実施（2017 年より「キッズアスレティクス×東京マラソンスタイル」）。
- 2018 年には、東日本大震災被災地支援の一環として、被災 3 県の小学生を対象とした「キッズアスレティクス×とうほくキャラバン」を実施。

<今後の方向性>

- 財団の社会貢献の一環として、都内、東北被災 3 県以外に加え、その他の地域でもキッズアスレティクスをはじめとした子どもの運動習慣づくりに資する事業を展開。
- 展開地域の拡大のほか、地域の指導者の育成・確保やネットワークづくりに協力していく。

◇「平成 29 年度体力・運動能力調査」(スポーツ庁) より

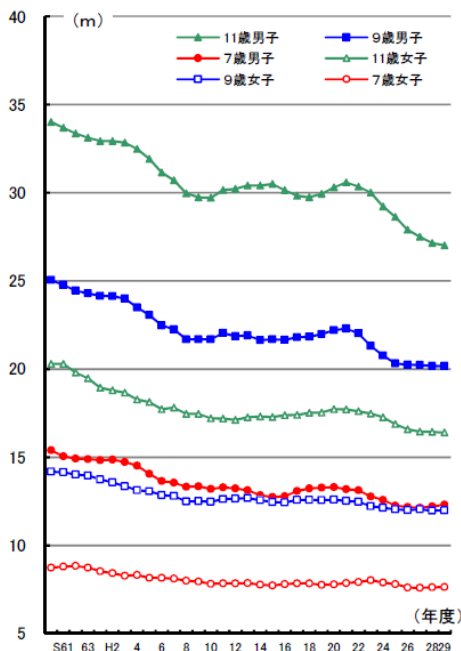


図2-9 ソフトボール投げの年次推移

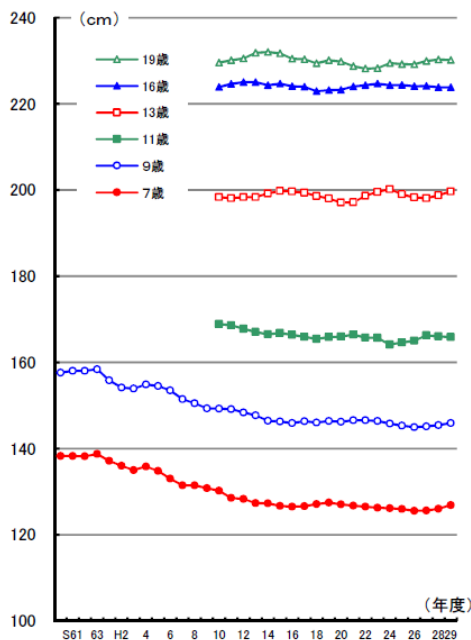


図2-7 立ち幅とびの年次推移(男子)

### 3 パラ陸上チャレンジサポート

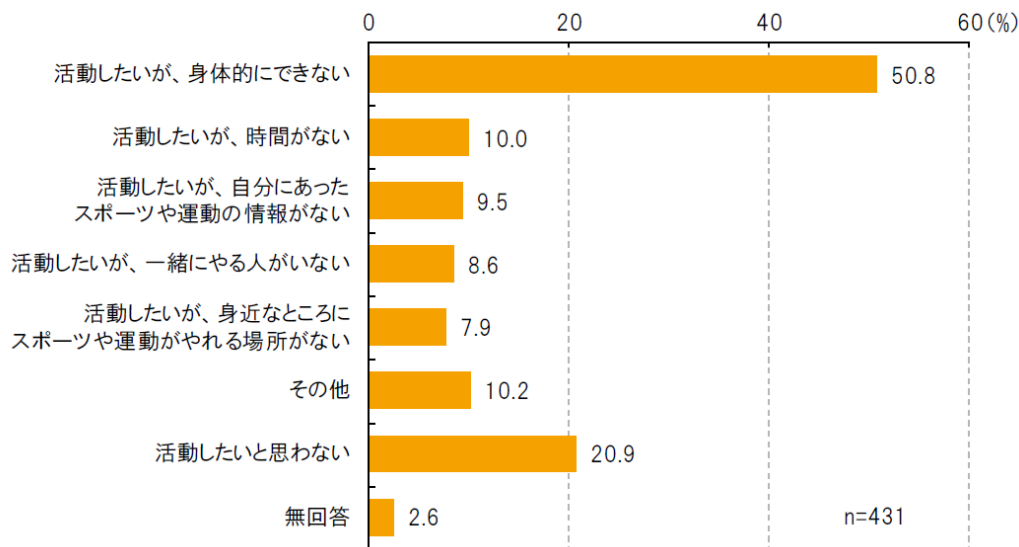
#### <現状>

- 「社会参加に関する障害者等の意識調査（平成 28 年度）」（東京都福祉保健局）によると、障害のある人がこの 1 年間にスポーツや運動を行わなかった理由は、「活動したいが、身体的にできない」が 50.8%、「活動したいが、自分にあったスポーツや運動の情報がない」が 9.5%、「活動したいが、一緒にやる人がいない」 8.9%などとなっている。
- 障害者スポーツやニュースポーツは、年齢や性別、運動技術や生活環境等におうじて、用具やルールを工夫し、参加者にあわせて生み出されたものであり、障がいのある人でも楽しむことができるスポーツ。
- 障害者のスポーツへの参加を進めるには、障害者スポーツへの理解やサポート体制の整備が必要。
- 財団では、スポーツレガシー事業のひとつとして車いす陸上体験教室の開催など、「車いすチャレンジサポート」を実施。
- 「東京マラソン 2018 ファミリーラン」で車いすの部門を新設。
- 財団オフィシャルイベント「東京トライアルハーフマラソン 2018」でチャレンジ車いすの部を新設。

#### <今後の方向性>

- 障害のある人が、マラソンやランニングスポーツに参加できる環境整備に資することを目的に、これまで取り組んできた「車いす陸上チャレンジサポート」のほか、視覚障害の人のための伴走者の育成などに取り組む。
- 障害のある人向けのランニング体験会などを開催し、障害者がランニングスポーツや大会に参加するきっかけづくりを行う。

#### ◇「社会参加に関する障害者等の意識調査」平成 29 年 3 月 東京都福祉保健局



# 環境プロジェクト

## 1 衣類リユース

### <現状>

- 2017大会までは、東京マラソンにおいてランナーにより脱ぎ捨てられた衣類はすべて廃棄。
- 2018大会からNPO法人洋服ポストネットワークと連携し、衣類リユース活動を実施。
- 東京マラソン EXPO 2018 会場や大会当日のスタートエリアに「洋服ポスト」を設置し、まだ使える衣類をランナーなどから預かり、海外の古着マーケットを通じてリユース。
- 2018大会で預かった衣類は約3,500kg。

### <今後の方向性>

- 「洋服ポスト」のジョグポート有明への常設やオフィシャルイベント、ONE TOKYO イベントでの設置により、衣類のリユース活動を拡充。

### ◇衣類リユースの仕組み



**運動不足のウェアを、もう一度走らせよう。**

東京マラソン財団 洋服ポスト

東京マラソン財団「洋服ポスト」による衣類リユースの活動を支援しています。

**「洋服ポスト」の流れ**

- 1 「洋服ポスト」に投函。  
使用しなくなった衣類やスポーツウェアを「洋服ポスト」に投函し、回収します。回収した衣類は、東京マラソン財団「洋服ポスト」を通じてリユース活動を実施します。
- 2 衣類を計量し、寄付。  
集まった衣類は、東京マラソン財団「洋服ポスト」を通じてリユース活動を実施します。
- 3 世界各地の古着マーケットで販売。  
集まった衣類は、東京マラソン財団「洋服ポスト」を通じてリユース活動を実施します。

※「洋服ポスト」は、東京マラソン財団「洋服ポスト」を通じてリユース活動を実施しています。

たとえば着替えと一緒に、もう1着持って行く。それだけであなたのランニングとチャリティは、もっともっと近くなる。

**東京マラソン EXPO 2018 会場内** ジョグポート有明(有明競技場)にて開催

会場名: 3364-2422(有明) 24時間 | 会場名: 3364-2425(有明) 24時間

受付時間: 11:00-21:00 (受付終了: 20:00) | 受付時間: 7:00-22:30 (受付終了: 20:30)

**東京マラソン EXPO 2018 スタートエリア有明**にて開催

会場名: 3364-2425(有明) 24時間

※「洋服ポスト」は、東京マラソン財団「洋服ポスト」を通じてリユース活動を実施しています。

## 2 クリーンプロジェクト

---

### <現状>

- 東京マラソン当日は多くの運営車両が展開し、そのほとんどがガソリン車両。
- 2018大会からレースディレクターバイクをガソリン車から電動車に変更。
- 大会運営に必要となる発電機はすべてガソリン仕様。

### <今後の方向性>

- 大会運営関係車両を段階的に電気や CNG、ハイブリットなどの環境性能の高い車両に変更するとともに、運営機材に関しても、リチウム発電機など、より環境負荷が軽減する資機材を導入する。
- 公共交通機関と連携し、大会当日のノーマイカーキャンペーンの実施。
- 東京マラソンの日を東京の空気が一年で一番きれいな日にするためのクリーンプロジェクトの実施。
- 大気汚染物質測定によるクリーンプロジェクトの効果の測定。

### ◇富山マラソンの事例



### 10月28日(日)はノーマイカーデー

富山マラソンの開催時には交通渋滞が予想されます。緊急車両やバス・路面電車の通行確保のためにも、お出かけには自動車の使用を控え、公共交通機関のご利用をお願いします。

## 1 スポーツボランティアの活動促進・育成

### <現状>

- 大規模な国際大会である東京マラソンをはじめとしたスポーツボランティアの活動促進と社会貢献の一環としてのボランティア文化の醸成を目的として、2016年10月に発足した財団オフィシャルボランティアクラブ。
- 2018年11月現在で約2万5千人が登録。
- 全国のスポーツイベントでのボランティア募集の発信やスポーツボランティアのスキルアップを目的とした研修会・講習会を実施。
- 2018年より東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が運営する「東京2020参画プログラム」とともにVOLUNTAINER NEW PROJECT「For 2020」をスタート。

### <今後の方向性>

- 東京オリンピック・パラリンピック終了後も、2021年のワールドマスターズゲームス、2026年のアジア大会と国際的イベントの開催が続き、いずれにおいてもボランティアによる運営協力が不可欠。
- 今後も続くスポーツボランティアへのニーズへの対応と2020以降の継続的活動の活性化、活動クオリティーの向上に資するため、スポーツボランティアの育成プログラムの体系化や多様なスキルアップ講習の提供、企業・自治体など外部団体への研修・講習プログラムの提供を行う。

### ◇他団体への研修提供

2017年	埼玉県ボランティアリーダーシップ研修
2018年	静岡県都市ボランティア基礎研修 都内企業向けボランティアリーダー研修

### ◇研修・講習会事例

#### VOLUNTAINERリーダー研修兼選考

東京マラソンを中心としたスポーツイベントのボランティア運営体制において、重要な存在であるリーダーの研修・育成を実施しています。



#### スキルアップ講習「熱中症対策」

熱中症の原因や熱中症にならないための予防策を事例とともに紹介し、「どのような飲み物が適しているのか」、「適切なタイミングとは」、「熱中症になった場合の応急処置法」などについて学ぶ機会となりました。



## 2 スポーツボランティアネットワークハブ

### <現状>

- 全国のスポーツイベントではボランティアの組織化に苦慮する大会があり、VOLUNTAINER では募集や運営支援を行っている。
- スポーツイベントを実施していくためには、スポーツボランティアや都市ボランティアの組織化と継続的な活動の場の提供が必要であるとともに、スポーツボランティアのアクティブな活動を支えるための、全国のスポーツイベントをつなぐ仕組みや情報提供を行うネットワークハブが必要。
- オルタナティブ・ツーリズム（もうひとつの観光・新たな観光）やサステイナブル・ツーリズムとしてのボランティアツーリズムの可能性。
- 2017年より、ニューヨークシティマラソンボランティアツアーを実施。

### <今後の方向性>

- VOLUNTAINER を日本国内外のスポーツボランティアネットワークのハブ化を目指す。
- スポーツボランティアを求める全国のイベントとの関係を強化し、募集協力や運営協力を積極的に進めるとともに、2018年からスタートした VOLLUNTAINER ポイントプログラムを充実させ、登録者の拡大やVOLUNTAINERの活動促進を図る。
- 遠隔地イベントへの参加促進のため、RUN as ONE -Tokyo Marathon の提携大会などと連携したボランティアツアーを実施。

### ◇スポーツボランティア活動実績

2017年	2月26日(日)	東京マラソン2017
	3月18日(土)	東京マラソン財団スポーツレガシー事業 車いす陸上体験教室
	5月14日(日)	東京マラソンオフィシャルイベント「有明・お台場リレーハーフマラソン」
	6月11日(日)	日本パラ陸上競技選手権大会(観戦・スキルアップ)
	6月24日(土)	東京ラグビーファンゾーン 主催:東京都
	6月25日(日)	館山わかしおトライアスロン大会 主催:館山市
	9月18日(月)	チャレスポ! TOKYO 主催:公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
	10月28日(土)	東京マラソン財団オフィシャルイベント「東京トライアルハーフマラソン」
	11月 5日(日)	TCSニューヨークシティマラソン ボランティアツアー
	11月12日(日)	オトナのスポーツテスト2017 主催:読売新聞社

2018年	2月25日(日)	東京マラソン2018
	5月13日(日)	東京マラソンオフィシャルイベント「有明・お台場リレーハーフマラソン」
	5月17日(木)	ブルームバーグ スクエア・マイル・リレー東京2018
	6月24日(日)	館山わかしおトライアスロン大会 主催:館山市



### 3 賛助会員

---

#### <現状>

- VOLUNTAINER の運営原資は、ボランティア募集受託や研修受託によるもの。
- 2018 年 11 月時点での企業などの VOLUNTAINER チーム登録数は 36 団体。
- チーム登録の場合、企業の CSR 活動支援の側面もある。
- 今後も継続的にスポーツボランティアの活動促進を図っていくためには、資金面での運営協力者を募る必要がある。
- 通常、スポーツイベントには企業が協賛していることが多いため、東京マラソンと同じ手法（特定の企業から協賛を募る）をとった場合、当該特定企業への配慮から、ボランティアの募集や運営協力において、他大会との連携が制約される場合がある。

#### <今後の方向性>

- VOLUNTAINER 事業の趣旨に賛同する企業を広く募る賛助会員制度を新たに設け、VOLUNTAINER のチーム登録を行っている企業を中心に資金面での運営協力を求めていく。



## 終わりに

- 東京マラソンについては、これまで培ったブランド・プレゼンスを維持しながら、社会貢献など新たな取組にも挑戦しながら持続的に発展させていく。
- 「都民の健康増進と豊かな都民生活の形成」に向けては、これまで実施してきた様々な取組を更に深化させ、新たにウェルネス事業にも取り組むほか、大規模なランニングイベントの実施等を通じて、東京 2020 大会のレガシーを着実に継承する。
- 事業の実施にあたっては、これまで以上に設立団体である東京都及び日本陸連と連携を密にするとともに、財団の安定的な運営の確保に向け、収益構造の多角化や事業費の抑制にも取り組む。